

看護師における服薬指導の取り組み
～退院後も正しく服薬されることを目指して～

函館中央病院 南6病棟

成田麻美 水戸香織 野村千夏 大川夕姫子

石川真美 高橋朋子 丸山央

Key words：服薬指導、セルフケア、自己効力感

【目的】

内科疾患患者は、長期間の内服治療が必要な場合が多く、正しい内服投与は慢性期疾患の継続治療と再発予防に重要であるといえる。そこで私達は退院後も正しく服薬される事を目的として服薬指導を行った。

【方法】

期間：平成17年11月～平成18年2月

今まで自己管理をしていた患者

退院後自己管理する患者

今までは内服薬は処方されていなかったが、入院中新たに

処方になった患者

～ に対し、RCSを行ない、服薬指導対象者を選定。独自の看護計画を元に指導を行った。退院後、2度の電話による追跡調査にて、服薬状況を確認した。

【結果】

10名中8名に指導効果が得られた。このうち、退院後そのまま自己管理が出来ていた患者は10名中7名であった。

【考察】

今回の研究では、患者に退院後も自信をもって服薬管理を行っていただく事を目標としており、判り易く飲む事が出来る様に様々な働きかけを行った。日々患者と接する時間が多い看護師こそ患者の全体像を理解しながら個別的な服薬指導を行うことが出来たのではないかと考える。